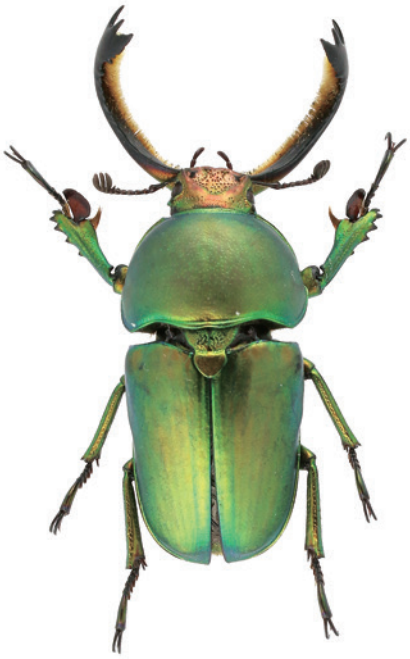
Museum News
博物館ニュース
徳島県立博物館
No.119
2020年6月25日発行

アカガネサルハムシ

パプアアオゾウムシ


パプアキンイロクワガタ♂

アシナガキンコガネ

ムカシタマムシの一種

まばゆい甲虫

甲虫のなかまには、宝石のようにきらめくものや、鮮やかな色をもつものがいます。きらびやかな色や派手な模様は、よく目立ち、敵に見つかりやすいです。しかし、実はその虫が毒をもっていることをアピールするためであったり、鳥の嫌がる色であったり、森の中に溶け込む色であったりと、そうなるための理由があります。

企画展「甲虫すごいぜ！」では、まばゆい甲虫だけでなく、奇抜（きばつ）な形の甲虫や、びっくりするサイズの甲虫など、膨大（ぼうだい）な数の甲虫標本を展示します。

（動物担当：山田量崇）

山伏の中世と近世
―仙光寺文書は語る―

長谷川賢二

はじめに

修験道という宗教をご存じでしょうか。山伏と呼ばれる宗教者が、山岳での修行によって呪術的な能力を獲得し、それを祈祷などで行使するものです。13世紀終わりから14世紀初めにかけて、山伏の活動の活発化を背景として成立した仏教の一種です。室町・戦国時代から江戸時代にかけて組織ができあがっていき、江戸時代には幕府の政策により、京都・聖護院門跡を中心とする本山派（天台宗）、京都・醍醐寺三宝院門跡を中心とする当山派（真言宗）を二大組織とする宗派秩序が完成しました。

ところで、各地に山伏がいたことは中世から確認できますが、これがどのように近世につながっていき、修験道の宗派的な秩序にまとめられていくのかということは、あまり分かっていません。阿波の場合、吉野川市鴨島町の仙光寺文書（当館保管）に事例が見られるので、紹介してみましょう。

仙光寺文書

仙光寺文書は、南北朝時代から江戸時代初期の古文書19通と般若心経１通が一括されており、中世に熊野先達を務めた十川（十河とも記された）先達という山伏に関するものです。先達の実態が分かるものが多くを占めており、阿波はもちろん全国的にも貴重な文書群です。

なお、熊野先達は、紀伊半島の熊野三山（本宮・新宮・那智）に参詣する檀那（信者）を、現地にいる御師（宿泊の手配や山内の案内などをした者）のもとへと導きました（図１）。いっぽうで、日常的には祈祷など、檀那の信仰の世話をしていました。先達も御師も、檀那から利益を得

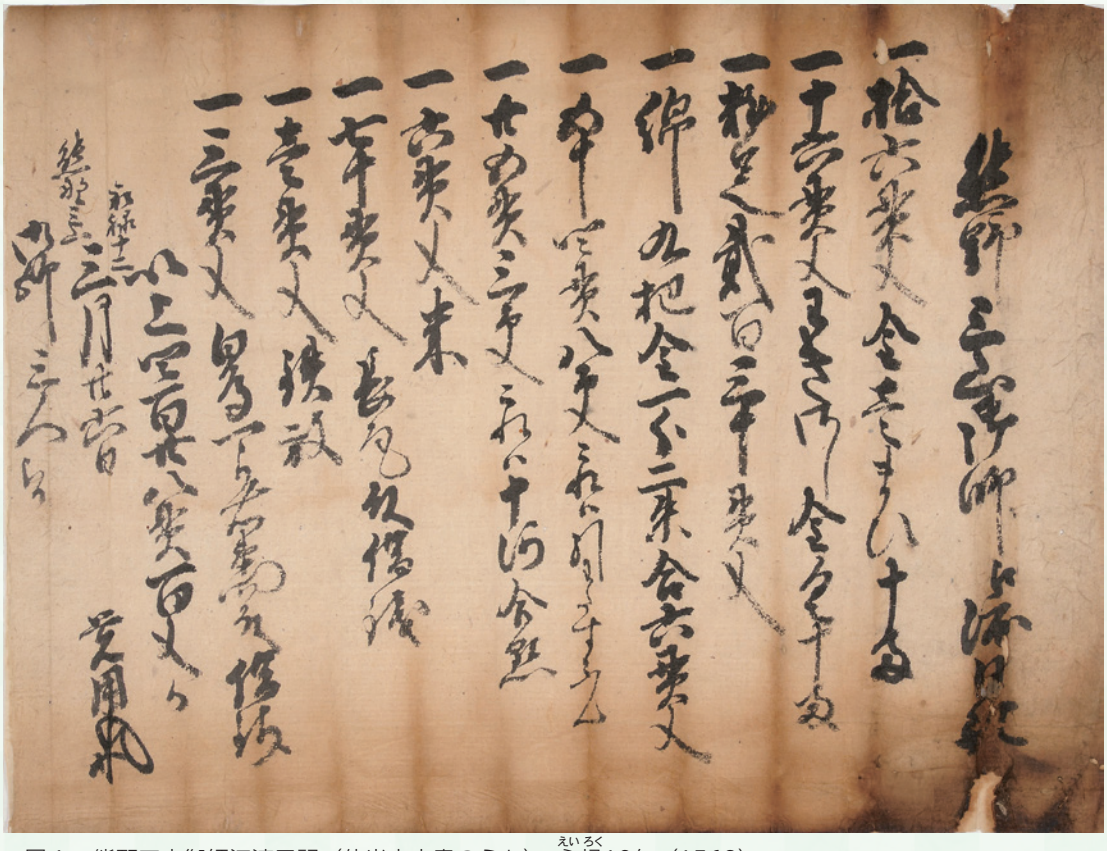


図１　熊野三山御師江渡日記（仙光寺文書のうち）　永禄12年（1569）
現在の三好市にあった白地城の城主大西覚用の熊野参詣に関する文書。覚用と熊野の御師の間を十川先達が仲介したことが分かります。

ていたため、檀那を獲得することが必要でした。

中世の十川先達

十川先達は、南北朝時代から存在が分かります。もとは現在の阿波市吉野町に拠点を持っていた柿原別当の弟子で、次第に自立していったようです。そして、吉野川市鴨島町・川島町域を中心として檀那を得ており、さらには鳴門市や美波町、三好市といった遠隔地にも檀那がいました。このような檀那の分布は、十川先達の広域的な活動の様子をうかがわせるものです。

16世紀半ばには、十川先達の拠点は「曽川山」という山号を称する寺院となっており、念行者と称した阿波国の有力山伏集団に属していました。山伏間の紛争処理にあたるほか、大峰山、伊勢、熊野、高越山といった阿波内外の霊場参詣の先達を務めていました。

近世初期の十川先達

蜂須賀氏の阿波入部（天正13年［1585］）の後にあたる天正17年、十川先達は阿波の山伏による行者講という共同組織のリーダーである年行事の権利や、配下にあった三谷寺（吉野川市鴨島町）を徳蔵坊に譲り渡しました（図２）。年行事とは、本来は1年限りの責任者ですが、私的な譲渡手続きを行っていることから、十川先達が持っていた固定的な役職であったようです。年行事は、熊野や伊勢などの霊場への初穂料の管理をしていたので、経済的な基盤もしっかりしていたと思われます。以上から、阿波の山伏の世界での十川先達の優位性は維持されていたとみられます。また、本山のような上部組織に属した様子はなく、自治的な体制の中にあったことが分かります。

しかし、寛文5年（1665）には変化がありました。この年、幕府による宗教統制の集大成というべき諸宗寺院法度が出されました。これを踏まえたものと思われますが、山伏の帰属を確定する作業が行われたのです。その際に、三谷寺に属する山伏6人が十川先達の配下にあることを確認する文書（図3）を出していることから、17世紀後半になって、十川先達も宗派秩序に絡めとられることになったとみてよいでしょう。天台宗聖護院門跡末の本山派に属することに決まったと思われますが、確かなことが分かるのは江戸時代後期のことです（この頃には十川先達とはいわず、持福院あるいは仙光寺と称しています）。

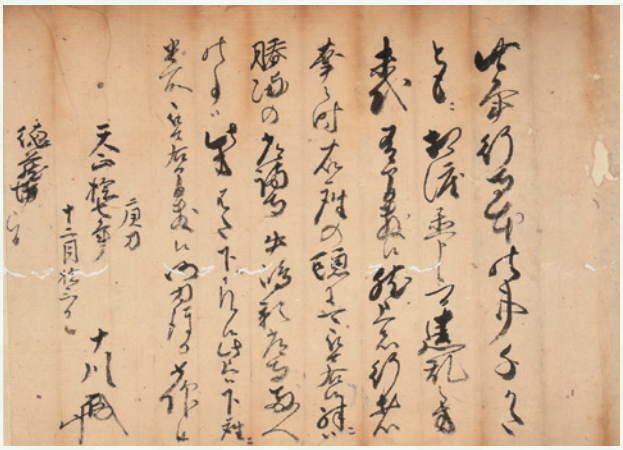


図２　年行寺本譲状（仙光寺文書のうち）
天正17年（1589）
徳蔵坊に年行寺（「年行事」の宛字）の権利を譲渡した文書

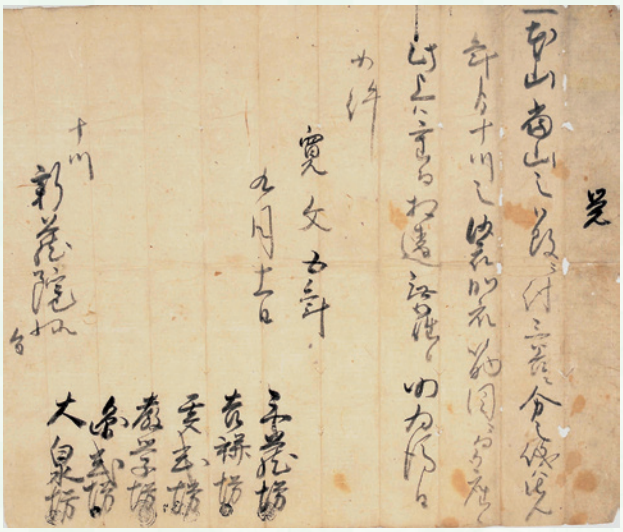


図３　覚（仙光寺文書のうち）　寛文5年（1665）
本山派・当山派の所属確定があった際の文書

おわりに

ここでは、仙光寺文書を通じて、十川先達（仙光寺）の中世から近世にかけての動向を紹介しました。わずかな史料から分かる範囲なので不十分ですが、それでもこうした様子が分かる例は、まれです。

一方で、県内各地の事例を俯瞰すると、近世になって姿を現す山伏も多かったようです。社会の流動性や山伏の位置づけと関連して、中世から近世にかけての阿波各地の山伏の実態追究が必要となってきます。今後も調べていきたいと思います。

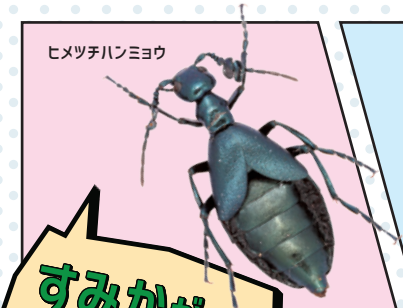
（歴史担当）

2020年度
徳島県立博物館
企画展

KOUCHU 甲虫すごいぜ! SUGOIZE

種類も、形も、色も、暮らしぶりも、地球上で一番甲虫がすごい！

甲虫は地球上でもっとも繁栄した生きもので、これまでに世界から約 38 万種が知られています。体の大きさや形、色、暮らしぶりも千差万別で、そこには私たちの想像をはるかに超えた多様な世界が広がっています。本展では、徳島県立博物館が 30 年かけて収集してきた膨大な数の甲虫コレクションをもとに、だれもが驚く甲虫のすごい世界を紹介します。


ヒメツチハンミョウ

すみかがSUGOIZE！

森林、草原、水中、砂漠、地下世界…
地球上のさまざまな環境に住む甲虫を紹介！

オバケミツギリゾウムシ

見た目がSUGOIZE！

サンヨウベニボタル

奇妙な形、鮮やかな色、びっくりするサイズ…
甲虫のもつ多様性の一端を紹介！

オオミドリツノカナブン

オオキバウスバカミキリ

アカモンアラメムカシタマムシ

徳島の甲虫がSUGOIZE！

ヒラズゲンセイ

徳島にもすごい甲虫がいるんです！
徳島を代表する甲虫たちを紹介！

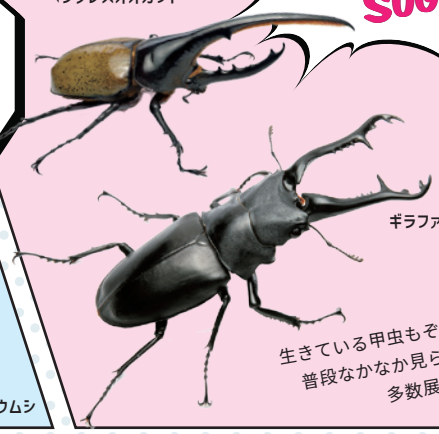
コレクターの標本がSUGOIZE！

石田正明氏の世界の甲虫、酒井 香氏の東南アジアのカミキリムシ、中川 健氏の徳島の甲虫など、博物館に寄贈された甲虫コレクションを一挙公開！

その他、
愛好家たちの自慢の標本や、
やばい外来甲虫なども展示。
昆虫採集の方法や標本の作り方
といったプロのすごい技も紹介
します！

パプアアオゾウムシ

生きている甲虫がSUGOIZE！


ヘラクレスオオカブト

ギラファノコギリクワガタ

生きている甲虫もぞくぞく集合！
普段なかなか見られないものも
多数展示しています。

写真提供　長島聖大（伊丹市昆虫館）

会　　場／徳島県立博物館1 階 企画展示室
開館時間／ 9:30 ～ 17:00
休館日／毎週月曜日、8月11日(火)　※8月10日(月・祝) は開館
観覧料／一般200円、高校・大学生100円、小中学生50円
　20名以上の団体は2割引／ 65歳以上は100円（証明できるものの提示が必要）／土・日曜日、祝日及び夏休み期間中は高校生以下無料／学校教育による利用は無料／身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所有者及びその介助者1名は無料（証明できるものの提示が必要）

関連行事
①展示解説
　7/12(日)、8/9(日)、8/30(日)　各14:00～14:30
②プロの技！標本づくり実演＆昆虫なんでも相談室
　7/26(日)、8/23(日)
　各10:00～12:00および14:00～16:00
①②とも、企画展示室にて実施。観覧料が必要です。
※「新型コロナウイルス感染症」の拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

2020
7.11 sat.
- 8.30 sun

歴史散歩

香川県高松市　屋嶋城跡

７世紀の東アジアは、朝鮮半島に存在した高句麗・百済・新羅の三国が互いに対立し、中国大陸の唐も朝鮮半島に侵攻するなど、非常に不安定な情勢にありました。唐・新羅によって百済が滅ぼされると、百済と同盟関係にあった倭（日本）も、663年（天智２）に朝鮮半島の白村江へ援軍を派遣しますが、大敗し、撤退を余儀なくされます。720年（養老４）に完成した歴史書『日本書紀』には、665年から670年にかけて北部九州から瀬戸内海沿岸各地における築城記事がみられ、白村江での大敗を受けて、唐・新羅の侵攻に備えて日本列島の防衛が強化されたことがわかります。今回紹介する屋嶋城も、この時期に築かれた山城のひとつです。

屋嶋城は、667年に築城されたとの記述が『日本書紀』にみられますが、長らく明確な遺構が確認されておらず「幻の城」とよばれていました。しかし、1998年（平成10）に、屋嶋城跡を探索していた地元の研究家によって屋島南嶺南西斜面において安山岩の石積みの一部が発見されたのをきっかけとして、香川県高松市教育委員会による発掘調査が行われました。その結果、2002年に城門跡が確認され、ついに屋嶋城の存在が証明されました。2016年には、城門跡の復元整備が完了し、自由に見学することができるようになっています。

図１　屋嶋城跡城門（南から）

この城門には、敵の侵入を阻むさまざまな工夫がこらされています。まず、城門の手前には、「懸門」とよばれる高さ2.5mほどの段差が設けられています（図1）。普段は梯子をかけて出入りしますが、敵が攻めてきた際には梯子を外して、外から侵入できなくします。また、城門を入ると、岩盤が行く手を阻む「甕城」とよばれる構造になっており（図2）、侵入者を左手（北側）へ誘導することで侵入者の横から矢を射かけられる仕組みになっています。このような特徴的な構造は、朝鮮半島の山城と共通しており、屋嶋城の築造に朝鮮半島の人たちが関わっていたことを物語っています。

（考古担当　岡本治代）

図２　甕城（東から）

情報BOX

石灰岩植物～過酷な環境に生える植物たち～

動物のように動き回ることのできない植物にとって、土壌の環境は、その生育に大きく影響します。特に石灰岩は、その特殊な性質から植物の生育に大きな影響を与えることが知られています。

石灰岩には、いくつかの大きな特徴があります。まず、岩が風化されにくいため、長期にわたって断崖絶壁を形成することが挙げられます。それらの露岩地は、直射日光を受け、昼夜ともに高熱化することが少なくありません。また、土壌の発達が悪く、保水性が悪いことから乾燥しやすいことが知られています。さらに、石灰岩から生成した土壌は、カルシウムが過剰に含まれる一方で、植物の生育に欠かせないカリウムやリンが不足しています。加えて、一般的な日本の土壌は弱酸性を示すのに対して、石灰岩は弱アルカリ性を示します。このように石灰岩地は、ふつうの植物の生育には適さない厳しい環境の土地であると言うことができます。

しかし、中には、石灰岩上に多く生え、他の種類の岩の上には少ないか、まったくみられない植物もあり“石灰岩植物”などと呼ばれます。

クモノスシダやイチョウシダ、ヨコグラノキなどが、これにあたります。また、この石灰岩地には、ケンザンデンダ、イワウサギシダ、そして、ムシトリスミレのように、遺存的な分布を示すものも見られます。これらは、かつての寒冷期に北方から四国まで南下し、広く生育していました。それが、後の温暖化によって、生育地が狭められ、こうした悪条件の場所に逃げ込んで生き残ったものと考えられています。つまり、石灰岩地では、その過酷な環境のために、他の植物がなかなか入ってこられないので、地史的な遺存植物が生き延びているようです。とくに、徳島県では、剣山や石立山のように、標高2,000m近い山に石灰岩が分布しており、独特の植物が生育しています。

（植物担当：茨木　靖）

図１：石灰岩の露頭

図2：ムシトリスミレ

レファレンス Q and A

画家の藤重春山についておしえてください

昨年の秋に、博物館の常設展で藤重春山筆の「鳴門之図」と「祖谷山葛橋之図」（図１）を展示しました。どちらも色彩の淡いやや地味な作品ですが、阿波の名所を描いているのが注目されます。当館にはほかに、春山筆の「津峯石門図」と「轟泉図」があります。鳴門、祖谷かずら橋、津峯石門、轟滝の４か所は、いずれも文化11年（1814）刊の『阿波名所図会』にとりあげられた名所です。

藤重家については、当ニュース65号（2006年12月発行）で、「藤重と阿波蜂須賀家」と題して紹介しました。この一族は、茶の湯の歴史では「塗師藤重」として知られています。上の記事では「鳴門之図」と「轟泉図」の写真を載せましたが、春山本人にはあまり触れませんでしたので、ここで補足しておきたいと思います。

書画家に関する地元の文献類には、春山の経歴が簡潔に記されています。また子孫の方のご協力を得て調査しても、結果はほぼおなじでした。

春山はもとは京都の人で、文政11年（1828）に信常の子として生まれました。家は代々蜂須賀家に出入りしています。初名源次郎、のち常師、通称左衛門、明治になってから与四郎を名のります。横笛の吹き手で、京都にいたころは御所の祭典儀式のおりに召されて奏しました。また南画を中林竹洞（1776-1853）に学び、春山の号と後素亭の別号を用いました。

明治２年（1869）に徳島に移住しました。弟子をとって画を教え、同17年（1884）に第２回内国絵画共進会に出品します。同28年（1895）に68歳で没しました。徳島市の瑞巌寺に墓があったそうですが、いまは確認できません。

移住後の春山については、作品と記録があまり残りません。ただ、徳島師範学校の教諭であった須木一胤（1873-1936）が、本県において明治維新後も南画がすたれなかった例として、藤重春山が門戸を構えて多くの門生を養成した、と記しています（「学制頒布以降ニ於ケル絵画ノ変遷年表」草稿、大正12年（1923）以前（図２））。

また、春山が描いた画手本を、県内の個人の方に見せてもらったことがあります。木製の表紙がある２帖の折本でした。ページを開くと、色々な山水図が収められ、なかには当館の作品とおなじ「祖谷山葛橋図」、「鳴門之図」、「津峯石門見表図」もありました。そして「鳴門之図」には、明治22年（1889）に当てられる己丑の干支が記されていました。彼はこうした手本を使って、弟子を指導したと思われます。

（美術工芸担当：大橋俊雄）

図１　藤重春山筆「祖谷山葛橋之図」

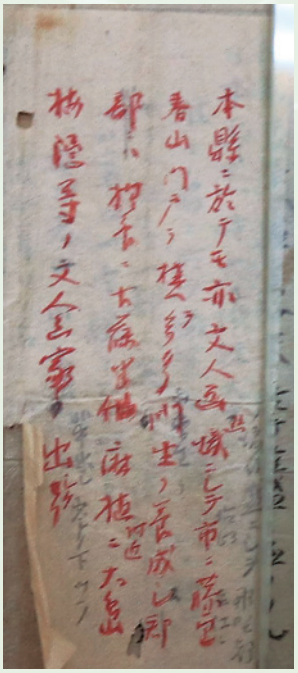


図２　須木一胤「学制頒布以降ニ於ケル絵画ノ変遷年表」（部分）

7月から9月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
野外生きものかんさつ	花巡り！植物かんさつハイキング7月 ～海開き山開き自然の中へ！～	7月 5日(日)	10:30～17:00	要	小学生から一般(10)	弁当・水筒持参 上勝町県立高丸山千年の森 (千年の森駐車場集合)
	川魚かんさつ★	7月12日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(10程度)	現地集合
	漂着物を探そう！★	7月19日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(10)	現地集合
	初めての植物かんさつ(夏編)★	8月 1日(土)	13:30～15:30	要	小学生から一般(10)	同日開催 「ゼロから始める植物学」
	夏の昆虫ウォッチング★	8月 9日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(15程度)	文化の森総合公園集合
	花巡り！植物かんさつハイキング9月 ～秋の七草探してみませんか？～	9月13日(日)	10:30～17:00	要	小学生から一般(10)	弁当・水筒持参 美波町日和佐城周辺 (日和佐城駐車場集合)
生きものしらべ隊	魚類の頭骨標本をつくろう★	8月 2日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(10)	
みどりを楽しもう・味わおう	葉っぱのスタンプで遊ぼう★	8月 9日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(6組)	
	草木染めで外来種対策にチャレンジ★	8月30日(日)	10:00～16:00	要	小学生から一般(6組)	5/10から延期
たのしい地学体験教室	アンモナイト標本をつくろう★	7月11日(土)	13:30～15:00	要	小学生から一般(5組程度)	材料費300円 (高校生以下は不要)
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①～⑤	9月19日(土)	13:30～15:00	要	一般(20)	①～⑤セット 申込みは9/9(水)まで
		10月17日(土)				
		11月14日(土)				
		12月19日(土)				
		1月16日(土)				
ミュージアムトーク	四国遍路と旅日記★	7月24日(金・祝)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	当日13:00より受付。先着順。
	ゼロから始める植物学～標本の作り方編～★	8月 1日(土)	10:30～12:00	不要	小学生から一般(20)	同日開催 「初めての植物かんさつ」
	アジアの竜脚類★	8月 8日(土)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	福井県立恐竜博物館との連携講座
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	四国南東部の地形と地質みどころ案内	7月19日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(20)	会場：海南文化館 当日13:00より受付。先着順。
	徳島の郷土刀　海部刀	8月23日(日)				
	役行者の虚実と修験道	9月 6日(日)				
企画展関連行事	企画展「甲虫すごいぜ！」展示解説	7月12日(日)	14:00～14:30	不要	－	企画展観覧料必要
		8月 9日(日)				
		8月30日(日)				
	プロの技！標本づくり実演＆昆虫なんでも相談室★	7月26日(日)	10:00～12:00	不要	小学生から一般 ※小学生の保護者同伴不要	企画展観覧料必要
			14:00～16:00			
		8月23日(日)	10:00～12:00			
			14:00～16:00			
部門展示関連行事	部門展示「骨格標本の世界」展示解説	7月26日(日)	13:15～13:45	不要	－	観覧料必要
博物館スペシャル	とくしま藍の日スペシャル「藍の葉っぱで遊ぼう」★	7月24日(金・祝)	10:00～12:00	不要	－	祝日無料
	標本の名前を調べる会★	8月22日(土)	10:00～16:00	不要	小学生から一般	☆参照

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対象行事です。　◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。　◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。
☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物（昆虫・貝など）・岩石・化石などの標本の名前を調べる行事です。希望者は採集標本（1人30点以内）を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
◎行事日の1か月前から10日前までに、必着でお申し込みください。
◎返信用はがきの住所・氏名を記入してください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、変更になる場合がございます。お問い合わせください。
※お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197）

往復はがきの記入例

＜往信の表面＞	＜返信の裏面＞	＜返信の表面＞	＜往信の裏面＞
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	63 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の行事名 2.参加希望者全員名（学年・年齢） 3.住所 4.電話番号（またはFAX番号）

特典がいっぱい！！博物館友の会に入会しませんか！

博物館友の会は、体験活動を通して、自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。みなさんも参加してみませんか！

■年会費　・個人会員2,000円　・家族会員3,000円
（10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。）

■会員の特典
- 博物館の企画展と常設展を無料で観覧できます。
- 友の会行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入できます。
- 催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。

◆ 2020年度の行事予定（友の会会員対象の行事です。）

7月25日(土)	夜の文化の森たんけん	(文化の森総合公園)
8月下旬(計画中)	川魚をかんさつしよう！	(美馬市穴吹川)
8月30日(日)～31日(月)	さよなら常設展一度限りの夢企画	(徳島県立博物館)
10月22日(木)	お祭りを見にいこう！	(吉野川市川田八幡神社)
11月28日(土)(予定)	新居浜日帰りバスツアー	(愛媛県新居浜市)
12月(計画中)	松山日帰りバスツアー	(愛媛県松山市)

※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
詳しくは、友の会事務局まで（電話088-668-3636 FAX 088-668-7197）

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話 088-668-3636　FAX 088-668-7197）

■発行年月日　2020年6月25日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070　徳島市八万町向寺山
https://museum.tokushima-ec.ed.jp　TEL088-668-3636　FAX088-668-7197